オンラインを活用した海外企業連携による PBL 型授業設計に関する考察

A Study on Project Based Learning with Overseas Companies through Online Collaboration

澤崎 敏文*1, 野本 尚美*1
Toshifumi SAWAZAKI*1, Naomi NOMOTO*1
*1 仁愛女子短期大学
*1Jin-ai Women's College
Email: sawazaki@jin-ai.ac.jp

あらまし: 本学では、これまで学生がリアリティを持って学習できる環境を構築するため、行政・地元企業と連携した PBL 型授業を実践してきたが、近年の海外ボランティア、短期留学を希望する学生の増加等により、これらの学びに対応した授業の新設を目指して、2019 年度に台湾の現地企業と連携した PBL活動を試行してきた。今回は、さらにオンラインを活用することでの利点、問題点等について考察を行う。キーワード: PBL, オンライン授業, 海外研修, 授業設計, アクティブラーニング

1. はじめに

近年、社会人基礎力が提唱され、多くの大学等でアクティブラーニング型の授業設計を実践しているが、本学でも、企業・地域との連携による PBL 型の授業を積極的に取り入れてきた。また、海外活動に興味を持つ学生も増加傾向にあるなか、本学が位置する福井県の企業には海外、特にアジア圏へ進出している中小企業が多く、多様な人材育成の必要性が高まっており、短期大学における実践的なキャリア教育の一環としての可能性も含めて、近年、海外での PBL 活動の可能性について調査・研究を行ったところである。

一方で、世界的に流行した新型コロナウイルスの 影響により、国際系カリキュラムを持つ多くの大学 同様、海外渡航を伴う教育プログラムが実施困難に なっているなか、今後どのような形で授業を設計し、 正規カリキュラムとして取り入れていけばいいのか 等の再検討が必要となってくる。例えば、海外に渡 航することが困難であれば、オンライン会議などの 仕組みを活用することで、距離的な制約がなくなり、 日程や費用的な制約でプロジェクトに参加できなか った学生が参加可能となったり、さらに遠方の地域 に連携先を広げていくなど地理的な制約から解放さ れる可能性もある。このように、授業設計における 課題は、コロナ禍における学習環境の変化にも依存 する。また、これまでは、評価指標の一つとして自 己効力感の変化を用いてきたが、インタビュー調査 の結果等も踏まえて、今後は、このような外部と連 携した PBL 型授業の評価、学習成果についての再定 義が必要であると考える。

今回は、このような環境変化のなかで、オンラインを活用した海外企業等との PBL 活動の継続可能性とその課題について考察を行った。

2. 当初想定した海外 PBL の流れ

これまでの研究課程から、PBL型授業においては、

主に次の3点を考慮しながら授業設計を行ってきた。

- ✓ 学生がプロジェクトの目的を十分に理解し、自発的に行動できるような環境を整えること
- ✓ 教員側で PBL 活動をデザインしすぎたり誘導し すぎたりしないこと
- ✓ プロジェクトの最終成果が具体的な形となって 残ること

以上に加えて、海外での PBL 活動では、安全かつ継続的に実践できる環境についても配慮する必要がある。そこで、2018 年度に海外候補地調査(台湾)、2019 年度に学生参加での実証を行い、以下のような PBL 授業モデルを想定してきた。

Step1:事前学習・準備等

連携企業等からの事前課題に対する調査を実施。課題解決に向けた仮説等を検証しながら、現地での活動(Step2)に備える。

Step2:海外での演習活動

海外では、現地でのフィールドワーク等の探究活動、企業等との連携などの演習活動を実施。 課題解決方法の提示、協働プロジェクト等を実施する。また、現地の文化や歴史等に触れる機会も設定する。

Step3:事後学習、報告会

帰国後、必要事項を調査・補足の上で、報告会 等を開催。参加していない学生等への情報の共 有を行う。

海外でのPBL活動を実践するメリット・デメリットについては、以下が検討された。

まず、メリットとして、非日常的な体験となることによる緊張感などから、学習意欲の向上などを期待することができると考える。また、物理的な距離・時間の制約から、プロジェクトにも厳格な期間・期限が設定されることで緊張感が高まり、学生らの事

前準備等段取りする力が問われることとなる。総合的な実践活動を演習として学ぶことが PBL の主な目的であるとすれば、このような環境をリアルに体感できることは大きなメリットとなる。さらに、言葉や文化の違いなど、近年のグローバル化にも対応した学習環境となることも海外 PBL のメリットとして想定される。

一方で、デメリットとしては、時間や費用等の理由により参加できる学生が限定的になりがちなことに加えて、物理的な距離や期間が限定されるがゆえに、調査不足、取り組み不足になりがちであり、プロジェクトそのものが消化不良で終わってしまう可能性もある。PBLにおいては、失敗も学習活動の一つであると考えれば、リアルな環境を提供していると考えることもできる。

3. オンライン化した場合の課題

これまでは、物理的な距離や時間的制約から、(1) 事前学習、(2)現地での研修、(3)帰国後の事後報告等、 といった明確な区切りをつけて授業設計を行ってき たが、すべての実践過程にオンラインの要素を組み 込むことで、物理的かつ時間的な制約からある程度 開放される。そこで、オンラインを活用した海外と の PBL 活動の場合のメリット・デメリットについて 以下のとおりまとめてみた。

3.1 オンライン化のメリット

オンラインを積極的に取り入れた場合、これまで想定していた事前学習、現地での演習といった物理的・時間的制約から解放されることで、その期間全体が1つのプロジェクトであるという意識が高まり、本来の PBL の目的に近づくのではないかと考えられる。また、海外の関係者と時間的な制約を気にせずにコミュニケーションをとることが可能となるため、密度の高いプロジェクト活動が期待できる。さらに、プロジェクトにかかわる時間・頻度が向上することで、プロジェクトに対する責任感も高まり、いわゆるお客さんとしての参加ではなく、当事者としての関わりも期待できる。

3.2 オンライン化のデメリット

これまで海外だからこそあった緊張感や期待感の 低下が懸念される。海外渡航することの特別感がな くなることで、非日常感もなくなり、「慣れ」による プロジェクトの質の低下等もデメリットとして考え られる。よって、これら「慣れ」をいかに防ぐかと いう視点での環境設計が必要になると考えられる。

3.3 オンライン PBL のモデルケースの実施

今後、オンラインでの海外企業連携による PBL 活動として、2021 年度内の授業において、以下のようなモデルケース実施を予定している。

- 5月 協力企業、参加者への打診、流れの説明
- 6月 授業への企業参加、テーマ発表
- 6月 グループ検討、課題解決に向けた検討
- 7月 海外企業参加による全体討論、成果発表

※タイ、ベトナム、インド等の企業を予定

4. 今後の海外 PBL の再検討

一般に、国内外を問わず、外部と連携した PBL を 実践する場合、以下のような課題に直面する。

(1) プロジェクトの継続性

協力していただく企業等のメリット等も含めた企業側の負担を考慮する必要がある。そのため、授業設計にあたっては、企業側に過度の負担とならない日程や内容を考慮する必要がある。

(2) 課題の設定の困難さ

海外 PBL であるが故の言葉の問題 (日本企業の現地法人の場合には問題にならない) や、遠方であるが故の調査等の時間的制約があること。ただし、近年ではオンラインによる事前の情報収集が容易になっているため、短期滞在であることの制約は授業設計次第である程度解消できる。

(3) 文化交流的側面への配慮

プロジェクトを通じた、または、それ以外での文 化交流等の機会を設けるか否か。

上記3点に加えて、完全にオンラインによるPBL 活動となった場合、これまで想定していた学習成果 とのずれはないか、そもそもこれまで想定していた 学習成果は適切だったのか等の疑問が生ずる。教室 内での学び・知識を実践する場が PBL であるとする ならば、それらがどの程度実践されていたかを評価 する必要がある一方で、特に海外プログラムの場合、 「参加」「滯在」することに評価の比重が偏るのでは ないか。また、それらが正当な評価指標であるなら ば、海外に行く代替措置としての「オンライン」と なった場合には、それら価値は代替不能な部分でも あり、その場合、現地で参加するという「リアリテ ィ」のようなものをいかにプロジェクトとして担保 していくべきかを考慮する必要も出てくる。これら は、海外プログラムに限った話ではなく、これまで 教室で行われてきた授業をオンライン化したときの 「物足りなさ」が何に起因しているのか、という問 題にも共通する部分になると考えられる。

PBLにおいては、その目的を参加学生と事前に十分理解し共有することが、プログラムの成否の鍵になると考えられる。今後、海外と連携した PBL 型の授業を重ねていく中で、その問題点を明らかにしていきたいと考えている。

参考文献

- (1) 澤崎敏文, 野本尚美: "海外での企業連携による PBL 型授業設計と実践に関する考察", 仁愛女子短期大学研究紀要第53号 pp.13-18 (2021)
- (2) 野本尚美, 澤崎敏文: "PBL としての海外実践活動と 学習効果に関する考察 - インタビュー調査をもとに した質的研究", 日本教育工学会 2021 年春季全国大会 講演論文集 pp.291-292 (2021)
- (3) 澤崎敏文: "企業研修と連動したキャリア教育プログラムの開発と考察", 教育システム情報学会 2019 年第1回研究会論文集, pp11-14 (2019)